

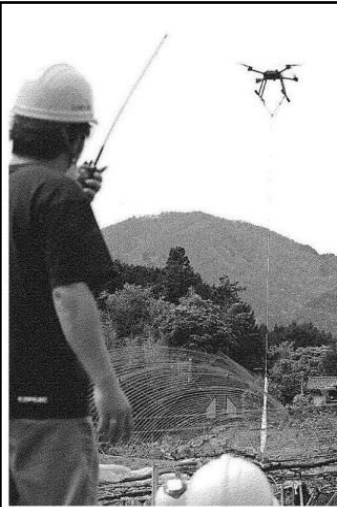
年 組 名 前 :

# 山梨市のブドウ農家と企業連携 ドローンで雨よけ交換

山梨市のブドウ農家と地元企業が連携し、ドローンを使ってブドウ棚の雨よけ用ビニールの交換作業を行った。人手と手間がかかるという作業だが、ドローンを活用することで短時間で終了。農家は「事業化すれば高齢化による人手不足の解消や高所作業などの効率化につながる」と期待を寄せていた。

## 作業効率化に手応え

企画したのは、いずれも市役立てよと昨年、山梨市牧出で牧丘町内でブドウ栽培をする農家の武川和彦さん(75)と佐藤浩史さん(47)と、ドローンでの雨よけ用ビニールの交換作業を、5月に1回交換する(佐藤さん)という簡易雨よけのアイデアを模索してきた。武川さんが有害鳥獣駆除にトフテックの高橋修社長は



上空からビニールをかけるドローン



ドローンの活用方法について意見を交わす(左から)佐藤浩史さん、武川和彦さん、高橋修社長。いずれも山梨市牧丘町西保下

「農家のアイデアは素晴らしいものが多い。地元企業として貢献したい」と快諾し、無償で協力。同社によると、農

業敷布以外でドローンを活用するのは珍しいという。6日に同市牧丘町西保下のブドウ畑でビニールの交換作業があった。同社の産業用ドローンがビニールを引っ張り、上空から骨組みの上に降らせていった。佐藤さんは「これまで農家数人が集まって長時間かけて作業していた。ドローンの方が断然楽だ」と手応えを語る。

武川さんは「今後ドローンを活用できる作業があれば提案していきたい。高齢化対策や作業効率の向上につながる」と話した。高橋社長は「活用方法を知ってもらうことで農家の組合やグループでドローンを保有してもらい、実践で使用する機会が増えていけばうれしい」と話した。同社は今後も農家の声を参考に、ドローンを農業に活用する方法を検討するという。

(2022年5月19日付 山梨日日新聞 17面)

### 問1

山梨市のブドウ農家では、ドローンを利用してどのような作業を行いましたか。

.....

### 問2

ブドウの栽培をしている武川さんは、ドローンを活用することで、どのようなメリットがあると思っていますか。

.....

### 問3

あなたなら、ドローンを活用して何をしたいですか。

.....

.....